

# 1.計画の運用体制

## 計画の運用方針

本計画は毎年、「町田市交通計画推進協議会」による目標水準の達成状況や施策・事業の評価検証を行いながら、事業を推進します。

また、本計画は、計画策定 (Plan)、施策・事業の実施 (Do)、モニタリング・評価 (Check)、見直し・改善 (Action) を繰り返す PDCA サイクルの考え方により推進していきます。

毎年度の施策・事業の実施・評価・見直しという短期の PDCA サイクルと、計画期間を通しての長期の PDCA サイクルにより、計画の推進及び進捗管理を行っていきます。

本計画の最終年次である 2031 年度末を目途に、PDCA サイクルに基づき、目標水準の達成状況や施策・事業の進捗状況などの評価を行った上で、計画全体の見直しを行います。

なお、各施策を着実に実行するため、行政、交通事業者、市民といった様々な主体の役割分担のもと、目標を共有し、連携しながら取り組み、本計画を推進していきます。

## 2 評価指標の設定

### 総合的な評価指標(モニタリング)

本計画の総合的な達成状況を測るための指標を設定します。

この評価指標の達成状況や各事業の進捗状況等を総合的に確認していくことで、本計画の進行管理を行います。(その他指標については第4回)

#### ● 評価の考え方

- ・ 本計画に基づく各施策の実施により、①公共交通利用水準が維持され、②多様な移動手段が効果的に利用されている場合、計画全体として、交通の将来像である「日常的な移動を多様な担い手・手段で支える、移動しやすく持続可能な交通」の実現が進んでいると評価します。

#### ● 上記の考え方に基づく評価指標（案）及び把握方法

##### ① 公共交通利用水準の維持＝「公共交通利用者数」

- ・ 公共交通が「使われ続けているか」を示す指標

把握に使用するデータ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 路線バス事業者：年間利用者数（輸送人員）</li> <li>・ 鉄道事業者：市内駅の年間乗降人員</li> </ul>

##### ② 多様な移動手段が利用されている＝交通の利便性（移動のしやすさ）に関する満足度

- ・ 多様な移動手段が利用されているか結果を捉える指標

把握に使用するデータ	算出例
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町田市市民意識調査（問 7：町田市内の生活環境についての満足度のうち、「交通の利便性」に関する満足度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「満足」、「やや満足」と回答した人の割合</li> <li>※2022年度：64.6%、2023年度：64.7%、2024年度：63.6%</li> </ul>